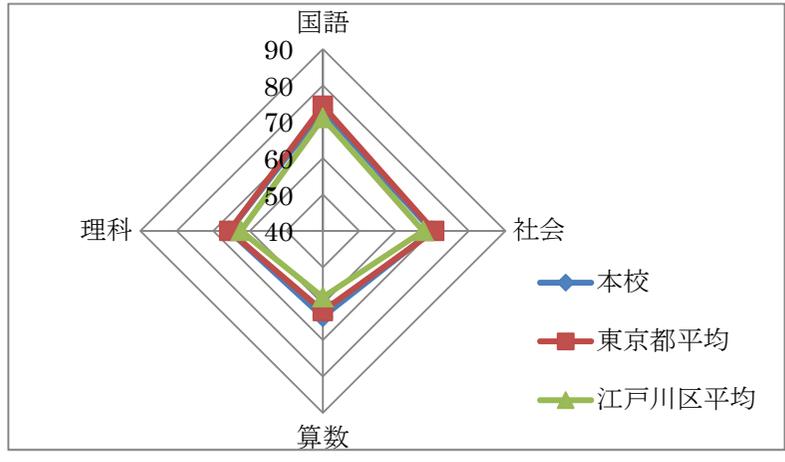


正答数分析



観点別正答率

A: 教科の内容 B: 読み解く力に関する内容

教科	観点	正答率 (%)		
		A	B	平均
国語	本校	76.7	51.2	73.2
	江戸川	74.4	50.0	71.1
	都	77.8	52.6	74.4
社会	本校	75.2	52.2	69.9
	江戸川	72.4	51.1	67.5
	都	75.6	53.7	70.5
算数	本校	66.3	53.3	63.6
	江戸川	61.3	46.5	58.2
	都	65.0	50.3	62.0
理科	本校	66.5	62.6	65.6
	江戸川	64.7	54.6	62.4
	都	67.9	57.4	65.6

調査問題から

8 やすこさんとあさらくんは、80まいのおり紙を2人で分けようとしています。次の(1)から(3)までの各問題に答えましょう。

(2) やすこさんとあさらくんは、やすこさんのおり紙のまい数が、あさらくんのおり紙のまい数の2倍より10まい少なくなるように分けることにし、2人のおり紙のまい数の関係を次の【図2】のように表しました。【図2】をもとにして、「やすこさんのおり紙のまい数□」を、「あさらくんのおり紙のまい数○」を使って表すと、どのような式になりますか。下の【式2】の□に当てはまる式を書きましょう。

【図2】

【式2】
□ = □イ

○全体の傾向

- ・各問題で、全国および都の平均値を上回っている。
- ・特に、B問題の集計値に高い傾向が見られる。

○上位層・下位層

- ・各教科における上位層と下位層の開きが大きい。
- ・上位層が約5割、下位層が約3割と集団内のばらつきが大きい

○教科の内容

- ・全教科・両観点において、江戸川区の平均を上回っている。
- ・算数A・B、理科Bにおいて、都の平均を上回っている。
- ・全教科Bにおいては、読み取る力を見取る問題において正答率が低く、特に国語が低い。

○正答率

- ・本校児童の正答率は17.0%である。
- ・区平均は17.5%である。

○誤答分析

- ・記号(□・○)と数字を合わせて立式できず、記号のみ、数字のみで立式している児童が多い。
- ・無回答の児童も数名見られる。

学 校

○短期的

- ・日々の授業において、文章問題の中から必要な情報を確認し、それを活用して問題を解くようにさせる。
- ・算数の文章問題では、情報を数直線に表したり、図式化したりして問題を解かせ、視覚的に捉えられるようにする。

○中・長期的

- ・全学年で、キーワードを拾う学習や話を要約する活動、本の内容をまとめる学習などに取り組み、各教科や各領域にわたって、文章を読み解く力を向上させる。
- ・全学年で発達段階に応じて、自分で解いた問題を、相手に伝えるように説明できるような学習活動を取り入れる。
- ・各学年末に、東京ベーシックドリルおよび区チャレンジ問題に取り組むことで、学力の伸びを見取る。
- ・東京ベーシックドリルを活用し、前学年の学習内容の定着を図る。算数は、到達度を測定し、定着度を確かめ、個に合わせて基礎的力を付けるドリルやチャレンジ問題に取り組む。

家 庭

○日常的な取り組み

- ・生活の中で、算数に関することを意識させ、数学的な思考力を育てる。
- ・新聞や本など、活字に積極的に触れることで文章に親しむ。
- ・家庭学習で、算数の問題のスパイラル学習(反復練習)に取り組ませる。
- ・家庭学習キャンペーンで、東京ベーシックドリルに取り組む。